

早期の立退き避難が必要な区域

家屋が倒壊するような氾濫や河岸の侵食が発生するおそれがある区域や、家屋の最上階も水没するおそれがある区域は、早期の立退き避難が必要です。このような区域では、屋内に留まることにより直ちに命に危険がおよぶおそれがあるため、災害時は避難指示等に従って安全な場所に速やかに避難してください。

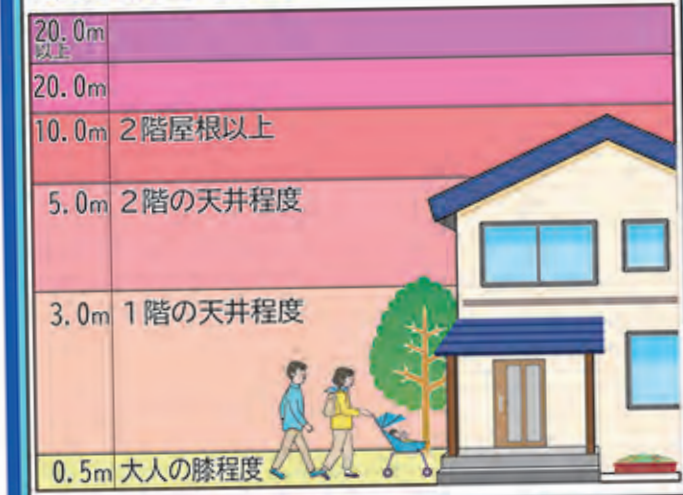
指定区域の種類	発生する現象と避難行動
早期の立退き避難が必要な区域	
指定区域の種類	発生する現象と避難行動
家屋倒壊等 氾濫想定 区域	堤防決壊等により流速の早い「氾濫流」が発生するおそれがある区域です。木造家屋は倒壊するおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。
河岸侵食	家屋が倒壊するような「河岸侵食」が発生するおそれがある区域です。地面が崩られ、家屋が崩落するおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。
家屋が水没する おそれがある区域	最上階も水没するような浸水のおそれがある区域です。屋内に留まることにより命に危険がおよぶおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。

指定避難所一覧表

○ : 使用可能
□ : 浸水した深さによっては記載の避難可能階層へ避難して下さい
※ 状況により開設されないことがあります

No	地区	避難所施設名称	所在地	洪水	土砂災害
3	村木	村木コミュニティセンター	村木町1-21	○ (床下浸水)	○
17	本江	魚津市立図書館	本江1940	○ (床下浸水)	○
19	加積	清流小学校	吉島432	2階以上	○
20	加積	東部中学校	吉島1934	2階以上	○
21	加積	加積コミュニティセンター	六郎丸1062	○ (床下浸水)	○
22	加積	魚津高校	吉島945	○ (床下浸水)	○
23	加積	新川高校	吉島1350	2階以上	○
24	道下	道下小学校	北鬼江2741	○ (床下浸水)	○
25	道下	道下コミュニティセンター	北鬼江2-14-15	○ (床下浸水)	○
26	道下	ありそドーム	北鬼江2898-3	○ (床下浸水)	○
27	経田	経田小学校	浜経田665-3	○ (床下浸水)	○
28	経田	経田コミュニティセンター	浜経田466	○ (床下浸水)	○
29	経田	魚津工業高校	浜経田3338	3階以上	○
30	天神	新川学びの森天神山交流館	天神野新147-1	○	○
31	天神	天神コミュニティセンター	天神野新220	○	○
32	天神	新川みどり野高校	木下新144	2階以上	○
33	西布施	西布施地域活性化センター	長引野1290-3	○	○

浸水深の目安

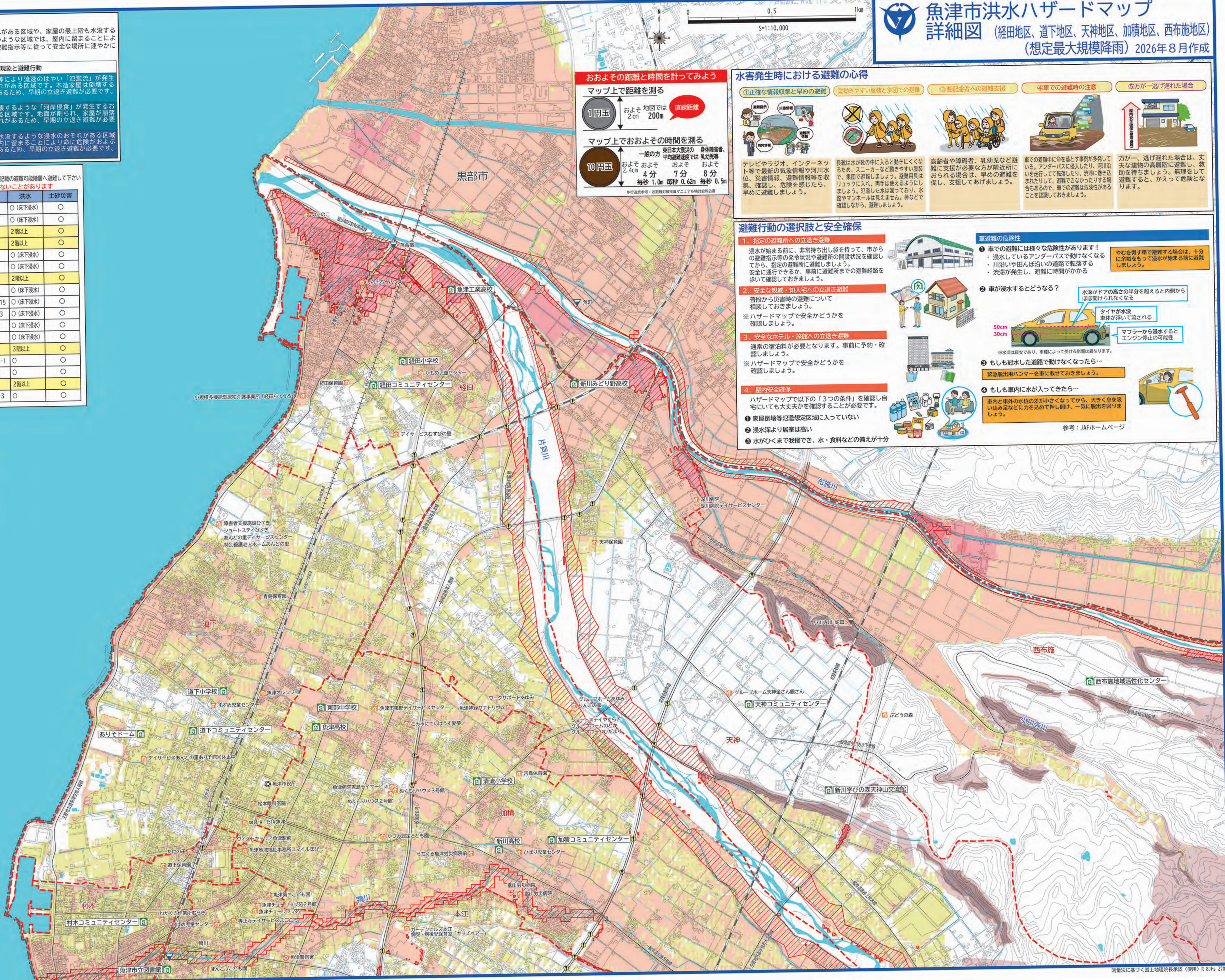


凡例

- 浸水深
- 浸水深 20.0m～
 - 浸水深 10.0～20.0m
 - 浸水深 5.0～10.0m
 - 浸水深 3.0～5.0m
 - 浸水深 0.5～3.0m
 - 浸水深 0～0.5m

- 早期の立退き避難が必要な区域
(河岸侵食・氾濫・浸水深3.0m以上)
- 土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
- ※詳細は「土砂災害ハザードマップ」をご確認ください

- 指定避難所
要配慮者利用施設
避難時の注意箇所
(アンダーパス等、避難する際には注意が必要な箇所です)
市役所
警察署
消防署
主な病院
水位観測所
(CCTVカメラ含む)
危機管理水位計
- 地区界
--- 市界



およその距離と時間をおよそ測る

マップ上で距離を測る

1円玉
およそ 2cm
200m
直線距離

マップ上でおよその時間を測る

一般の方 東日本大震災の 身体障害者、
平均避難速度では 乳幼児等
およそ 2.4cm およそ 4分 7分 8分
毎秒 1.0m 毎秒 0.62m 毎秒 0.5m

歩行速度参考：避難対策推進マニュアル検討会資料

水害発生時における避難の心得

- ①正確な情報収集と早めの避難
- ②動きやすい服装と集団での避難
- ③要配慮者への避難支援
- ④車での避難時の注意
- ⑤万が一逃げ遅れた場合



テレビやラジオ、インターネット等で最新の気象情報や河川水位、災害情報、避難情報等を受信し、確認し、危険を感じたら、早めに避難しましょう。

長靴は水が靴の中に入ると動きにくくなるため、スニーカーなど動きやすい服装で、集団で避難しましょう。避難用具はリュックに入れ、両手は使えるようにしましょう。氾濫した水は濁っており、水路やマンホールは見えない。棒などで確認しながら、避難しましょう。

高齢者や障害者、乳幼児など避難に支援が必要な方が隣近所におられる場合は、早めの避難を促し、支援してあげましょう。

車での避難中に命を落とす事例が多発している。アンダーパスに侵入したり、河川沿いを走行して転落したり、波瀾に巻き込まれたりして、避難できなかったりする場合があります。車での避難は危険性があることを認識しておきましょう。

万が一、逃げ遅れた場合は、丈夫な建物の高層階に避難し、救助を待ちましょう。無理をして避難すると、かえって危険となります。

避難行動の選択肢と安全確保

- 1. 指定の避難所への立退き避難
- 2. 安全な親戚・知人宅への立退き避難
- 3. 安全なホテル・旅館への立退き避難
- 4. 屋内安全確保

1. 指定の避難所への立退き避難
浸水が始まる前に、非常持ち出し袋を持って、市からの避難指示等の発令状況や避難所の開設状況を確認してから、指定の避難所に避難しましょう。
安全に通行できるか、事前に避難所までの避難経路を歩いて確認しておきましょう。

2. 安全な親戚・知人宅への立退き避難
普段から災害時の避難について相談しておきましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

3. 安全なホテル・旅館への立退き避難
通常の宿泊料が必要となります。事前に予約・確認しましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

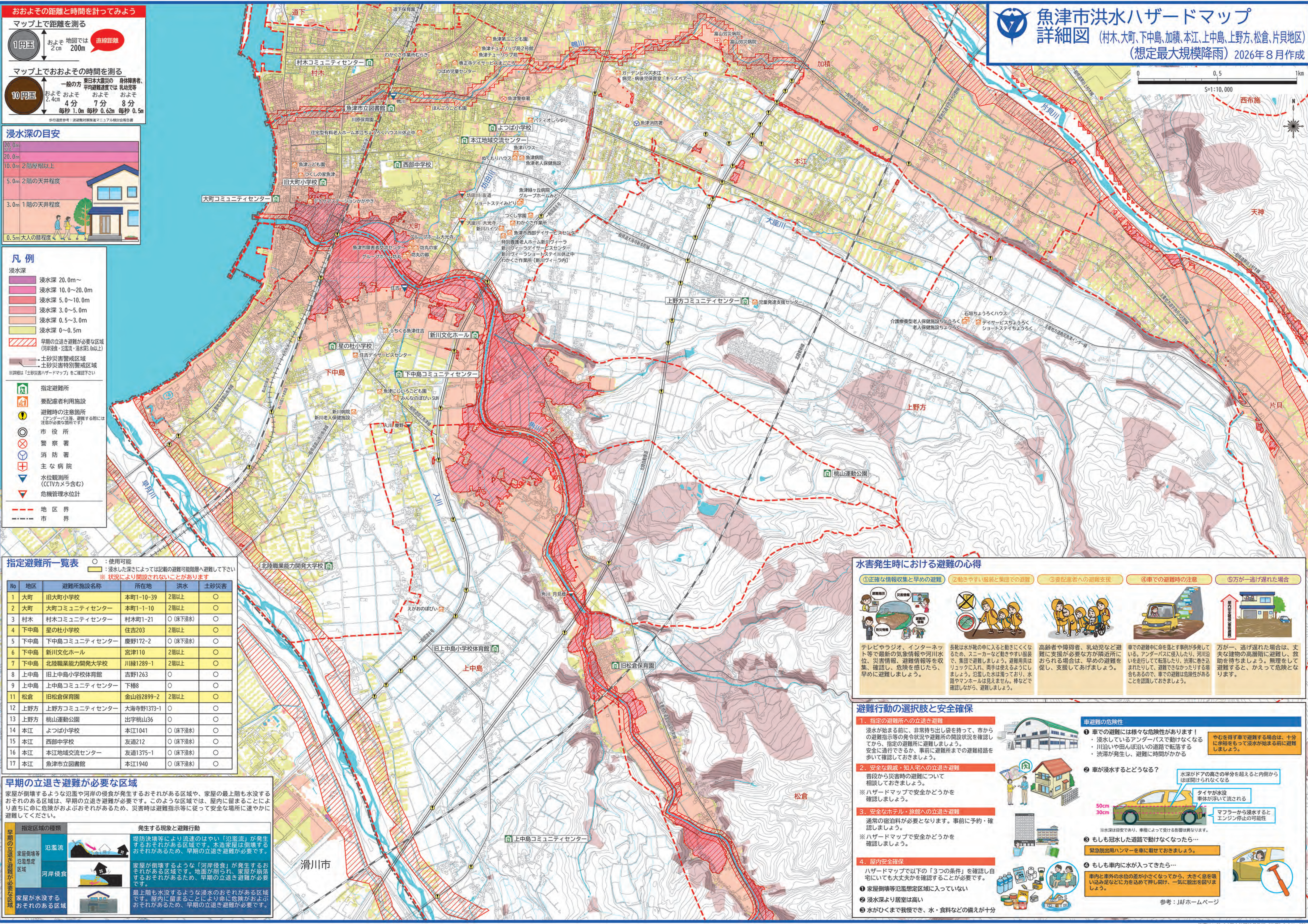
4. 屋内安全確保
ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認することが必要です。

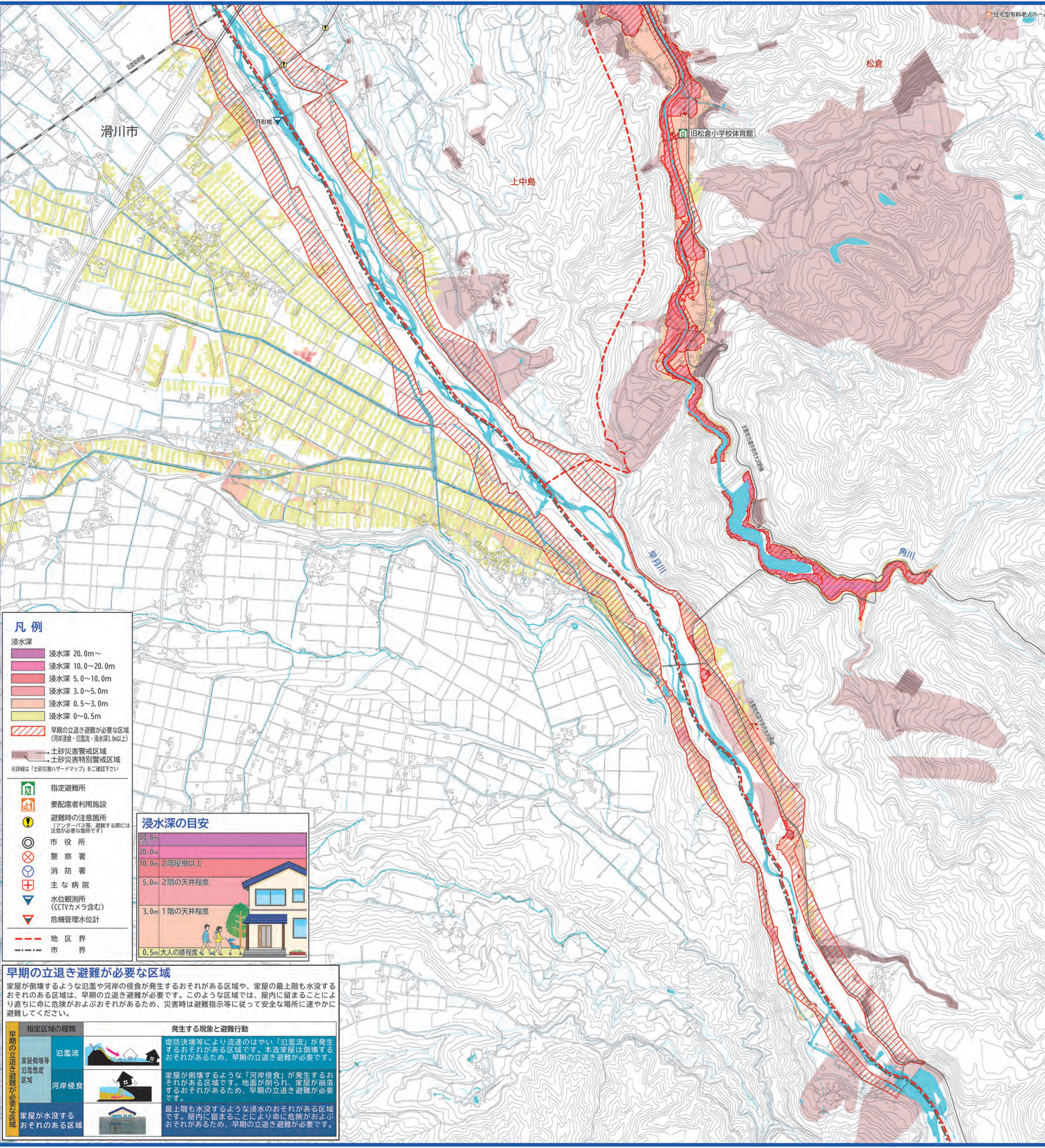
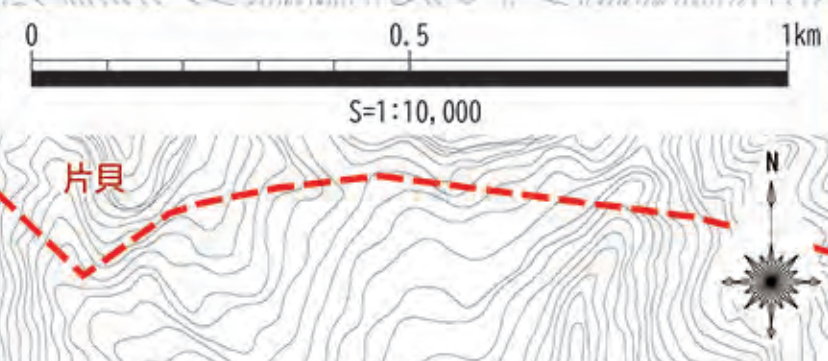
- ① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
- ② 浸水深より居室は高い
- ③ 水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分

車避難の危険性

- ① 車での避難には様々な危険性があります！
・ 浸水しているアンダーパスで動けなくなる
・ 川沿いや田んぼ沿いの道路で転落する
・ 渋滞が発生し、避難に時間がかかる
- ② 車が浸水するとどうなる？
水深がドアの高さの半分を超えると内側からほぼ開けられなくなる
タイヤが水没
車体が浮いて流される
マフラーから浸水するとエンジン停止の可能性
- ③ もしも冠水した道路で動けなくなったら…
緊急脱出用ハンマーを車に載せておきましょう。
- ④ もしも車内に水が入ってきたら…
車内と車外の水位の差が小さくなってから、大きく息を吸い込み、足などには力を込めて押し開け、一気に脱出を繰り返しましょう。

参考：JAFホームページ





凡 例

浸水深

- 浸水深 20.0m~
- 浸水深 10.0~20.0m
- 浸水深 5.0~10.0m
- 浸水深 3.0~5.0m
- 浸水深 0.5~3.0m
- 浸水深 0~0.5m

早期の立退き避難が必要な区域
(河岸浸食・氾濫流・浸水深3.0m以上)

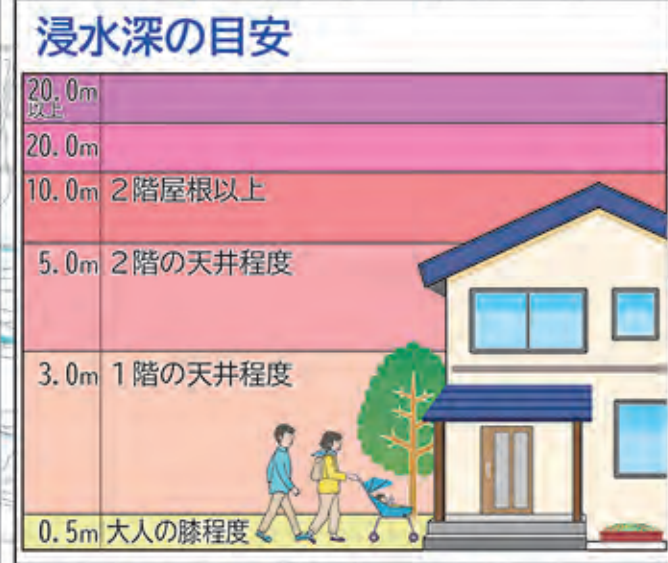
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域

※詳細は「土砂災害ハザードマップ」をご確認ください

指定避難所
要配慮者利用施設
避難時の注意箇所
(アンダーパス等、避難する際には注意が必要な箇所です)

市役所
警察署
消防署
主な病院
水位観測所
(CCTVカメラ含む)
危機管理水位計

地区界
市界



早期の立退き避難が必要な区域

家屋が倒壊するような氾濫や河岸の侵食が発生するおそれがある区域、家屋の最上層も水没するおそれがある区域は、早期の立退き避難が必要です。このような区域では、屋内に留まることにより直ちに命に危険がおよぶおそれがあるため、災害時は避難指示等に従って安全な場所に速やかに避難してください。

指定区域の種類	発生する現象と避難行動
早期の立退き避難が必要な区域	家屋倒壊等 氾濫想定区域
早期の立退き避難が必要な区域	河岸侵食
家屋が水没するおそれがある区域	

おおよその距離と時間を計ってみよう

マップ上で距離を測る

1円玉
およそ 2cm
地図では 200m
直線距離

マップ上でおおよその時間を測る

10円玉
およそ 2.4cm
およそ 4分
およそ 7分
およそ 8分
歩行速度参考：歩道幅約3m、歩行速度マニピュレーション

指定避難所一覧表

○：使用可能
●：浸水した深さによっては記載の避難可能階層へ避難して下さい
※ 状況により開設されないことがあります

No	地区	避難施設名称	所在地	洪水	土砂災害
10	松倉	旧松倉小学校体育館	鹿熊11	2階以上	○

水害発生時における避難の心得

- ①正確な情報収集と早期の避難
テレビやラジオ、インターネット等で最新の気象情報や河川水位、災害情報、避難情報等を受信、確認し、危険を感じたら、早めに避難しましょう。
- ②移動しやすい服装と集団での避難
長靴は水が靴の中に入ると動きにくくなるため、スニーカーなど動きやすい服装で、集団で避難しましょう。避難用具はリュックに入れ、両手は使えるようにしましょう。氾濫した水は濁っており、水路やマンホールは見えませんが、棒などで確認しながら、避難しましょう。
- ③要配慮者への避難支援
高齢者や障害者、乳幼児など避難に支援が必要な方が身近にいらっしゃる場合は、早期の避難を促し、支援してあげましょう。
- ④車での避難時の注意
車での避難中に命を落とす事例が多発している。アンダーパスに侵入したり、河川沿いを走行して転落したり、渋滞に巻き込まれたりして、避難できなかったりする場合もあるので、車での避難は危険性があることを認識しておきましょう。
- ⑤万が一、逃げ遅れた場合
万が一、逃げ遅れた場合は、丈夫な建物の高層階に避難し、救助を待ちましょう。無理をして避難すると、かえって危険となります。

避難行動の選択肢と安全確保

1. 指定の避難所への立退き避難
浸水が始まる前に、非常持ち出し袋を持って、市からの避難指示等の発令状況や避難所の開設状況を確認してから、指定の避難所に避難しましょう。安全に通行できるか、事前に避難所までの避難経路を歩いて確認しておきましょう。
2. 安全な親戚・知人家への立退き避難
普段から災害時の避難について相談しておきましょう。※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。
3. 安全なホテル・旅館への立退き避難
通常の宿泊料が必要となります。事前に予約・確認しましょう。※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。
4. 屋内安全確保
ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫を確認することが必要です。
 - ① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
 - ② 浸水深より居室は高い
 - ③ 水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分

車避難の危険性

① 車での避難には様々な危険性があります！

- ・ 浸水しているアンダーパスで動けなくなる
- ・ 川沿いや田んぼ沿いの道路で転落する
- ・ 渋滞が発生し、避難に時間がかかる

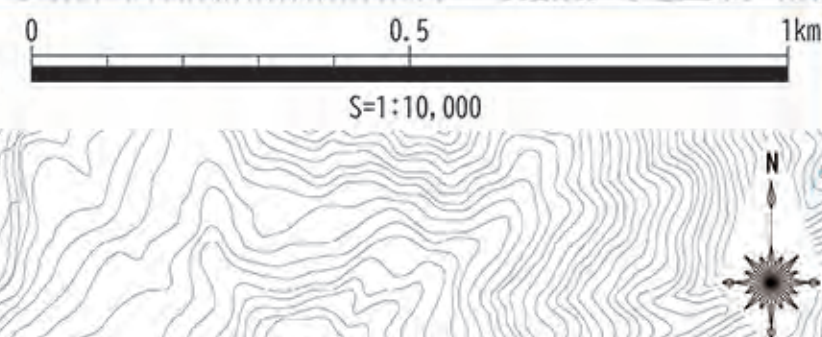
② 車が浸水するとどうなる？

- 水深がドアの高さの半分を超えると内側からほぼ開けられなくなる
- タイヤが水没、車体が浮いて流される
- マフラーから浸水するとエンジン停止の可能性

③ もしも冠水した道路で動けなくなったら…
緊急脱出用ハンマーを車に載せておきましょう。

④ もしも車内に水が入ってきたら…
車内と車外の水位の差が小さくなってから、大きく息を吸い込み足などに力を込めて押し開け、一気に脱出を図りましょう。

参考：JAFホームページ



おおよその距離と時間を計ってみよう

マップ上で距離を測る

1円玉

およそ 2cm 地図では 200m

直線距離

マップ上でおおよその時間を測る

10円玉

一般の方 東日本大震災の 身体障害者、
平均避難速度では 乳幼児等

およそ 2.4cm 4分 7分 8分
およそ 1.0m 毎秒 0.62m 毎秒 0.5m

歩行速度参考：避難経路距離測定マニュアル検討会報告書

指定避難所一覧表

○：使用可能
■：浸水した深さによっては記載の避難可能階層へ避難して下さい
※状況により開設されないことがあります

No	地区	避難所施設名称	所在地	洪水	土砂災害
18	片貝	片貝コミュニティセンター	島尻818	2階以上	○
33	西布施	西布施地域活性化センター	長引1290-3	0	○

早期の立退き避難が必要な区域

家屋が倒壊するような氾濫や河岸の侵食が発生するおそれがある区域や、家屋の最上階も水没するおそれがある区域は、早期の立退き避難が必要です。このような区域では、屋内に留まることにより直ちに命に危険がおよぶおそれがあるため、災害時は避難指示等に従って安全な場所に速やかに避難してください。

指定区域の種類	発生する現象と避難行動
家屋倒壊等 氾濫想定 区域	堤防決壊等により流速の早い「氾濫流」が発生するおそれがある区域です。本道家屋は倒壊するおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。
河岸侵食	家屋が倒壊するような「河岸侵食」が発生するおそれがある区域です。地面が削られ、家屋が崩落するおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。
家屋が水没する おそれがある区域	最上階も水没するような浸水のおそれがある区域です。屋内に留まることにより命に危険がおよぶおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。

水害発生時における避難の心得

- ①正確な情報収集と早期の避難
- ②動きやすい服装と集団での避難
- ③要配慮者への避難支援
- ④車での避難時の注意
- ⑤万が一逃げ遅れた場合

テレビやラジオ、インターネット等で最新の気象情報や河川水位、災害情報、避難情報等を取集、確認し、危険を感じたら、早めに避難しましょう。

長靴は水が乾かに入ると動きにくくなるため、スニーカーなど動きやすい服装で、集団で避難しましょう。避難用具はリュックに入れ、両手は使えるようにしましょう。氾濫した水は濁っており、水路やマンホールは見えません。棒などで確認しながら、避難しましょう。

高齢者や障害者、乳幼児など避難に支援が必要な方が隣近所におられる場合は、早期の避難を促し、支援してあげましょう。

車での避難中に命を落とす事例が多発している。アンダーパスに侵入したり、河川沿いを走行して転落したり、決壊に巻き込まれたりして、避難できなかったりする場合もあるので、車での避難は危険性があることを認識しておきましょう。

万が一、逃げ遅れた場合は、丈夫な建物の高層階に避難し、救助を待ちましょう。無理をして避難すると、かえって危険となります。

避難行動の選択肢と安全確保

1. 指定の避難所への立退き避難
2. 安全な親戚・知人宅への立退き避難
3. 安全なホテル・旅館への立退き避難
4. 屋内安全確保

洪水が始まる前に、非常持ち出し袋を持って、市からの避難指示等の発令状況や避難所の開設状況を確認してから、指定の避難所に避難しましょう。安全に進行できるか、事前に避難所までの避難経路を歩いて確認しておきましょう。

普段から災害時の避難について相談しておきましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

通常の宿泊料が必要となります。事前に予約・確認しましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

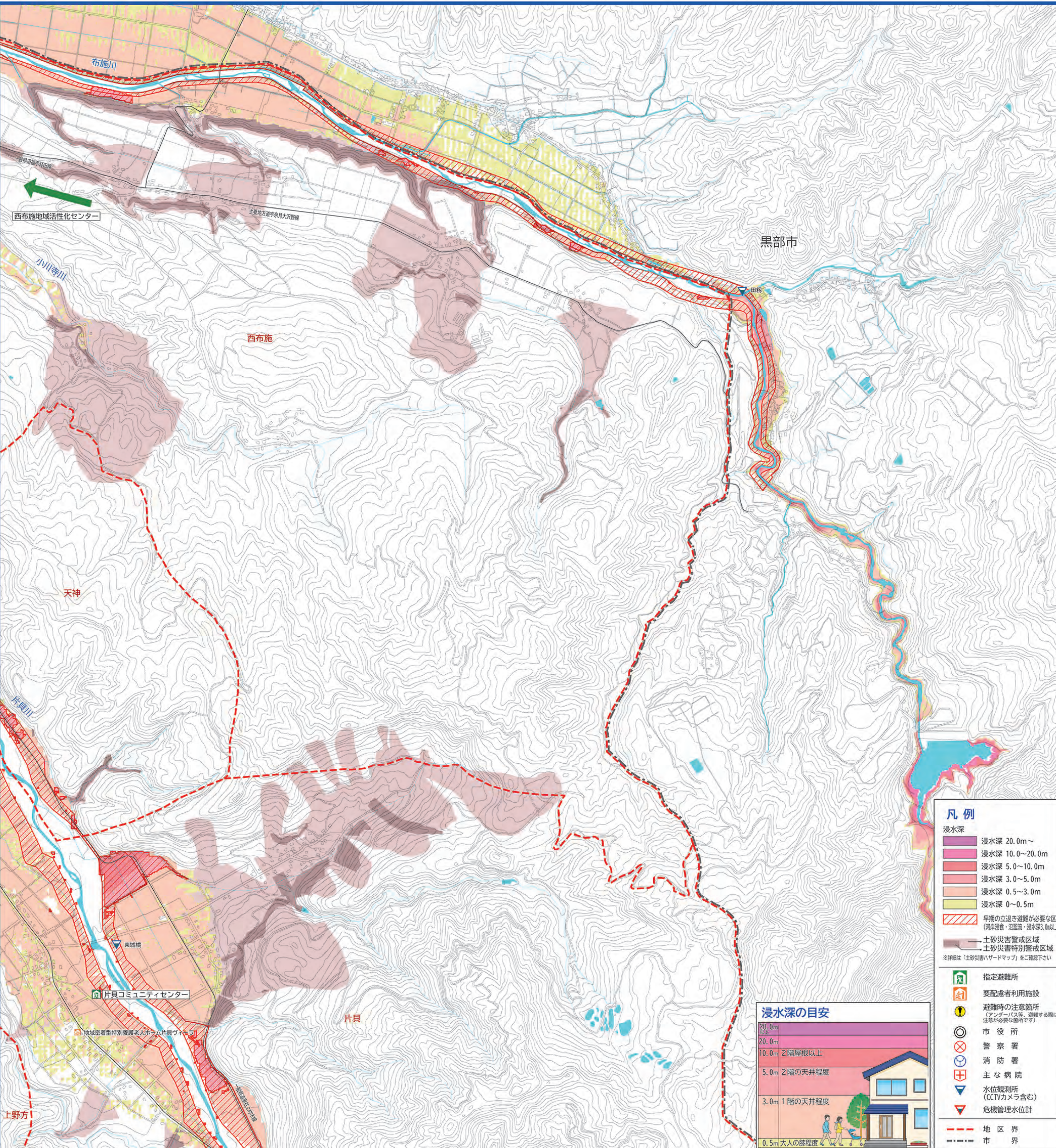
ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認することが必要です。

- ①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
- ②浸水深より居室は高い
- ③水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分

車避難の危険性

- ①車での避難には様々な危険性があります！
 - ・浸水しているアンダーパスで動けなくなる
 - ・川沿いや田んぼ沿いの道路で転落する
 - ・決壊が発生し、避難に時間がかかる
- ②車が浸水するとどうなる？
 - 水深がドアの高さの半分を超えたと内側からほぼ開けられなくなる
 - タイヤが水没、車体が浮いて流される
 - マフラーから浸水するとエンジン停止の可能性
- ③もしも冠水した道路で動けなくなったら…
 - 緊急脱出用ハンマーを車に載せておきましょう。
- ④もしも車内に水が入ってきたら…
 - 車内と車外の水位の差が小さくなってから、大きく息を吸い込み足などに力を込めて押し開け、一気に脱出を図りましょう。

参考：JAFホームページ



凡例

浸水深

- 浸水深 20.0m～
- 浸水深 10.0～20.0m
- 浸水深 5.0～10.0m
- 浸水深 3.0～5.0m
- 浸水深 0.5～3.0m
- 浸水深 0～0.5m

早期の立退き避難が必要な区域
(河岸侵食・氾濫流・浸水深3.0m以上)

土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域

※詳細は「土砂災害ハザードマップ」をご確認ください

指定避難所
要配慮者利用施設
避難時の注意箇所
(アンダーパス等、避難する際には注意が必要な箇所です)

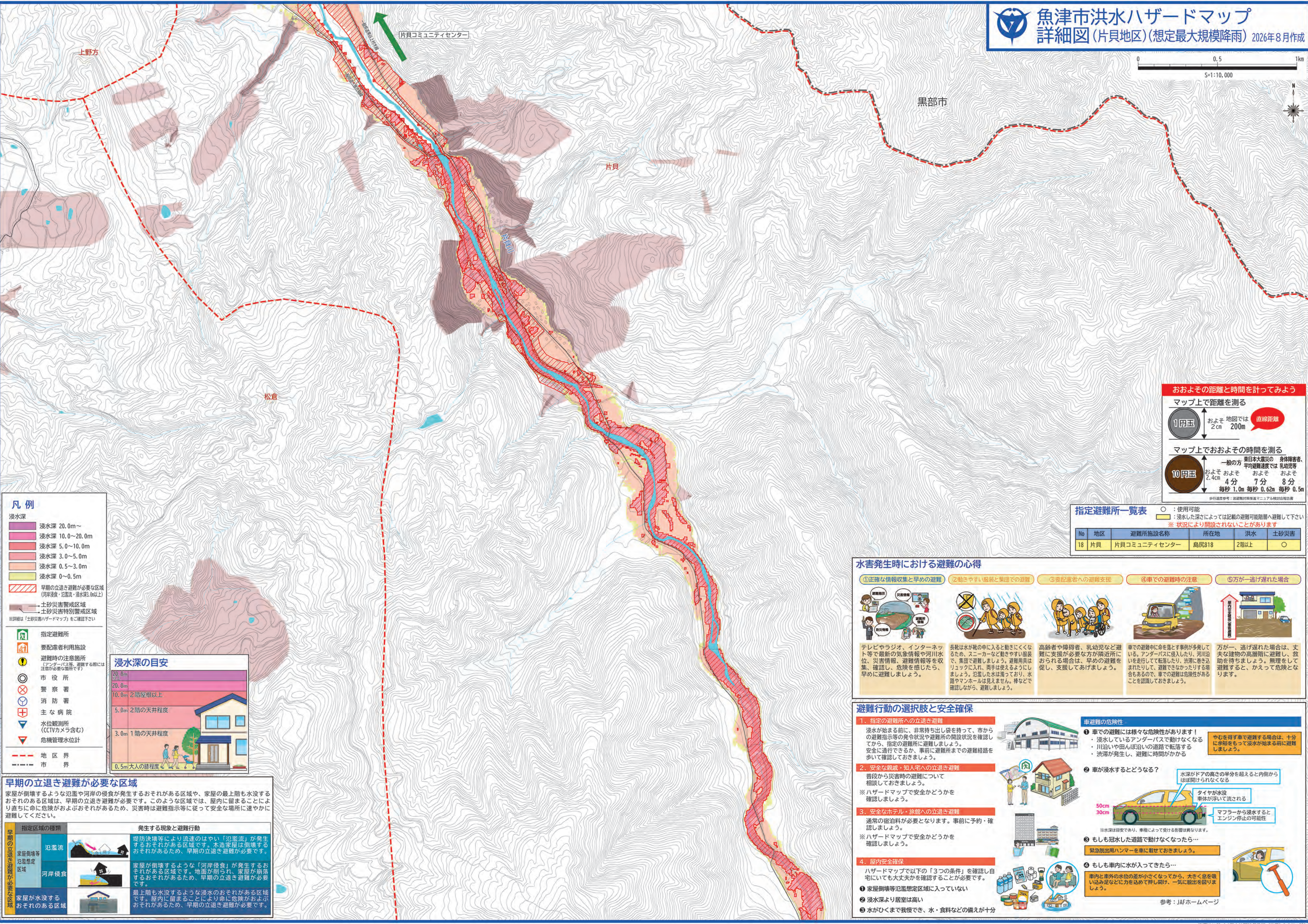
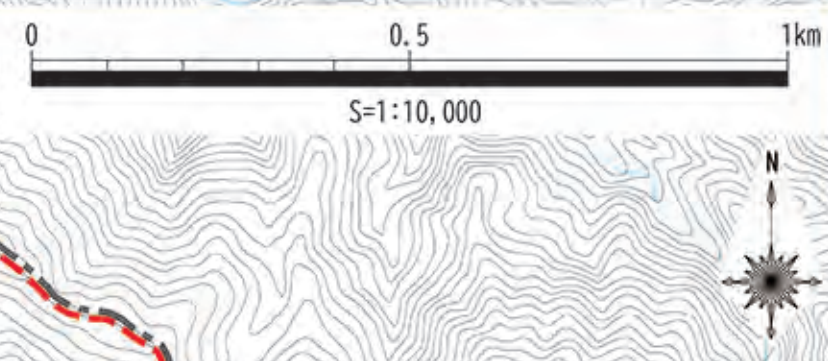
市役所
警察署
消防署
主な病院
水位観測所
(CCTVカメラ含む)

危機管理水位計

地区界
市界

浸水深の目安

20.0m	2階以上
10.0m	2階の天井程度
5.0m	2階の天井程度
3.0m	1階の天井程度
0.5m	大人の膝程度



凡 例

浸水深

- 浸水深 20.0m～
- 浸水深 10.0～20.0m
- 浸水深 5.0～10.0m
- 浸水深 3.0～5.0m
- 浸水深 0.5～3.0m
- 浸水深 0～0.5m

早期の立退き避難が必要な区域
(河岸浸食・氾濫流・浸水深2.0m以上)

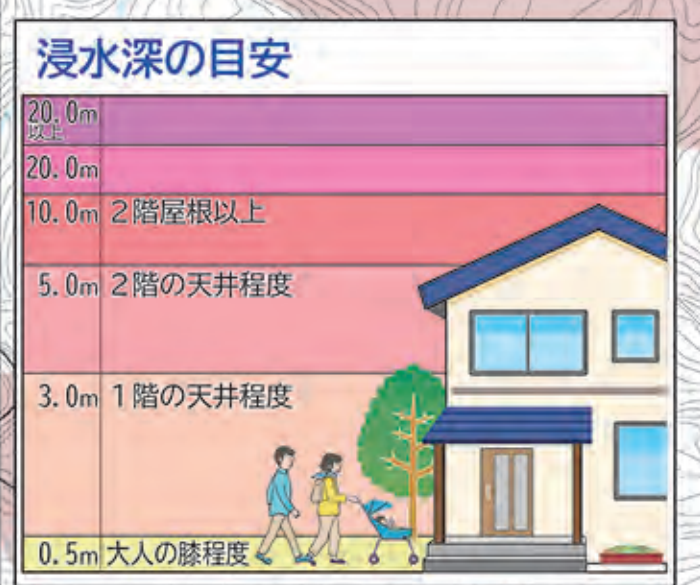
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域

※詳細は「土砂災害ハザードマップ」をご確認ください

指定避難所
要配慮者利用施設
避難時の注意箇所
(アンダーパス等、避難する際には注意が必要な箇所です)

市役所
警察署
消防署
主な病院
水位観測所
(CCTVカメラ含む)
危機管理水位計

地区界
市界



早期の立退き避難が必要な区域

家屋が倒壊するような氾濫や河岸の侵食が発生するおそれがある区域や、家屋の最上階も水没するおそれがある区域は、早期の立退き避難が必要です。このような区域では、屋内に留まることにより直ちに命に危険がおよぶおそれがあるため、災害時は避難指示等に従って安全な場所に速やかに避難してください。

指定区域の種類	発生する現象と避難行動
早期の立退き避難が必要な区域	家屋倒壊等氾濫想定区域
早期の立退き避難が必要な区域	家屋が水没するおそれがある区域

およその距離と時間を計ってみよう

マップ上で距離を測る

1円玉

およそ 2cm

地図では 200m

直線距離

マップ上でおよその時間を測る

一般の方	東日本大震災の平均避難速度では	身体障害者、乳幼児等
およそ 2.4cm	およそ 4分	およそ 7分
毎秒 1.0m	毎秒 0.62m	毎秒 0.5m

歩行速度参考：※避難時の標準速度マニアル参照

指定避難所一覧表

○：使用可能
□：浸水した深さによっては記載の避難可能階層へ避難して下さい
※状況により開設されないことがあります

No	地区	避難所施設名称	所在地	洪水	土砂災害
18	片貝	片貝コミュニティセンター	島尻818	2階以上	○

水害発生時における避難の心得

- ①正確な情報収集と早期の避難
テレビやラジオ、インターネット等で最新の気象情報や河川水位、災害情報、避難情報等を集集、確認し、危険を感じたら、早めに避難しましょう。
- ②動きやすい服装と集団での避難
長靴は水が乾かに入ると動きにくくなるため、スニーカーなど動きやすい服装で、集団で避難しましょう。避難用具はリュックに入れ、両手は使えるようにしましょう。氾濫した水は濁っており、水路やマンホールは見えませんが、棒などで確認しながら、避難しましょう。
- ③要配慮者への避難支援
高齢者や障害者、乳幼児など避難に支援が必要な方が近所にいらっしゃる場合は、早期の避難を促し、支援してあげましょう。
- ④車での避難時の注意
車での避難中に命を落とす事例が多発している。アンダーパスに侵入したり、河川沿いを走行して転落したり、決壊に巻き込まれたりして、避難できなかったりする場合もあるので、車での避難は危険性があることを認識しておきましょう。
- ⑤万が一逃げ遅れた場合
万が一、逃げ遅れた場合は、丈夫な建物の高層階に避難し、救助を待ちましょう。無理をして避難すると、かえって危険となります。

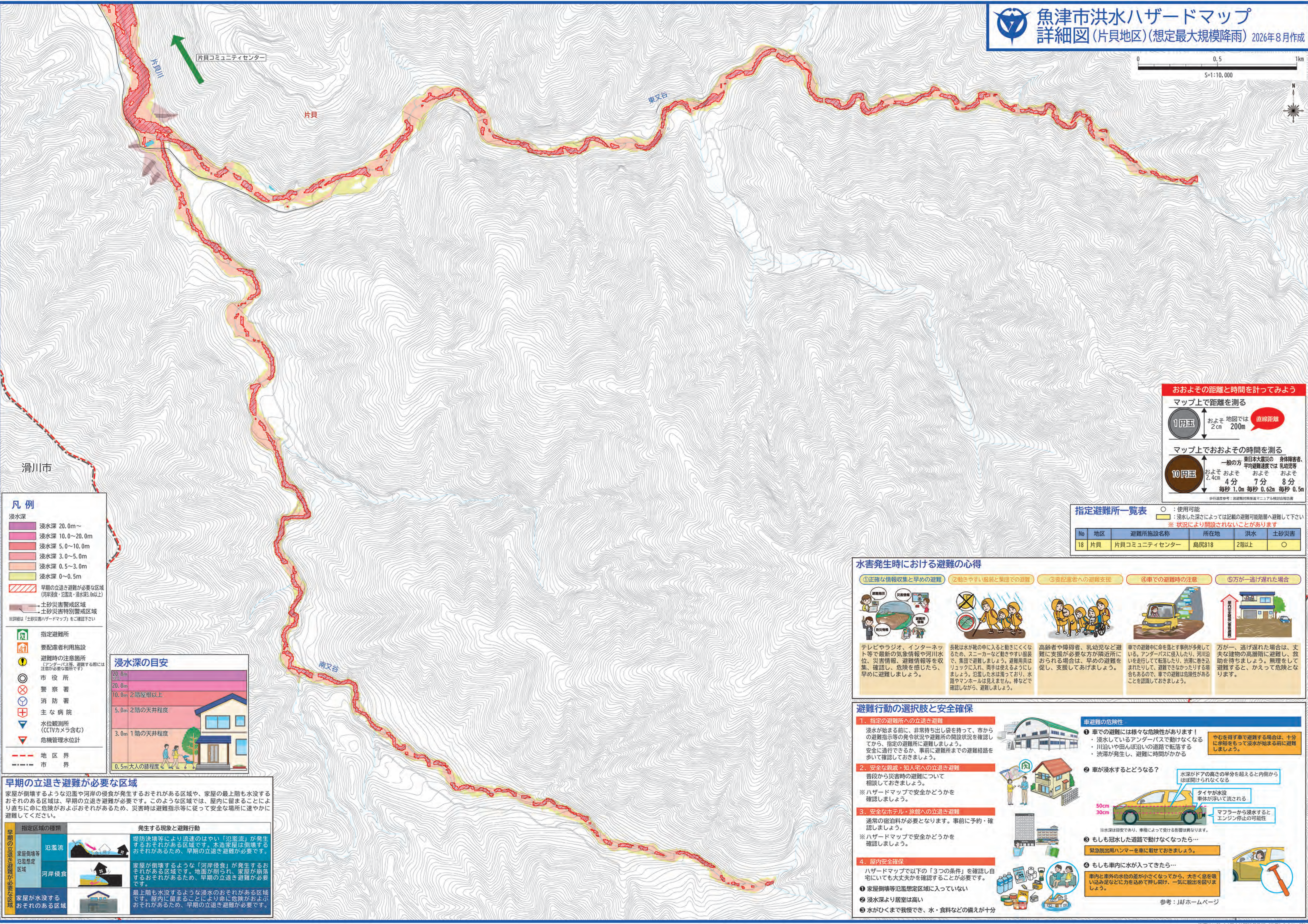
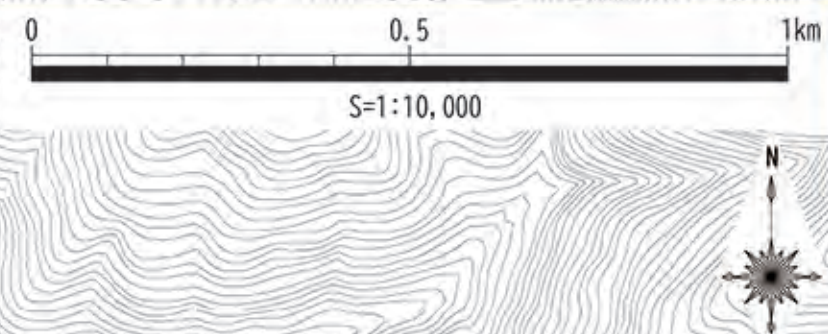
避難行動の選択肢と安全確保

1. 指定の避難所への立退き避難
浸水が始まる前に、非常持ち出し袋を持って、市からの避難指示等の発令状況や避難所の開設状況を確認してから、指定の避難所に避難しましょう。安全に通行できるか、事前に避難所までの避難経路を歩いて確認しておきましょう。
2. 安全な親戚・知人宅への立退き避難
普段から災害時の避難について相談しておきましょう。※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。
3. 安全なホテル・旅館への立退き避難
通常の宿泊料が必要となります。事前に予約・確認しましょう。※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。
4. 屋内安全確保
ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認することが必要です。
 - ① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
 - ② 浸水深より居室は高い
 - ③ 水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分

車避難の危険性

- ① 車での避難には様々な危険性があります！
 - ・ 浸水しているアンダーパスで動けなくなる
 - ・ 川沿いや田んぼ沿いの道路で転落する
 - ・ 決壊が発生し、避難に時間がかかる
- ② 車が浸水するとどうなる？
 - 水深がドアの高さの半分を超えると内側からほぼ開けられなくなる
 - タイヤが水没、車体が浮いて流される
 - マフラーから浸水するとエンジン停止の可能性
- ③ もしも冠水した道路で動けなくなったら…
 - 緊急脱出用ハンマーを車に載せておきましょう。
- ④ もしも車内に水が入ってきたら…
 - 車内と車外の水位の差が小さくなってから、大きく息を吸い込み足などに力を込めて押し開け、一気に脱出を図りましょう。

参考：JAFホームページ



凡 例

浸水深

- 浸水深 20.0m～
- 浸水深 10.0～20.0m
- 浸水深 5.0～10.0m
- 浸水深 3.0～5.0m
- 浸水深 0.5～3.0m
- 浸水深 0～0.5m

早期の立退き避難が必要な区域
(河岸浸食・氾濫流・浸水深2.0m以上)

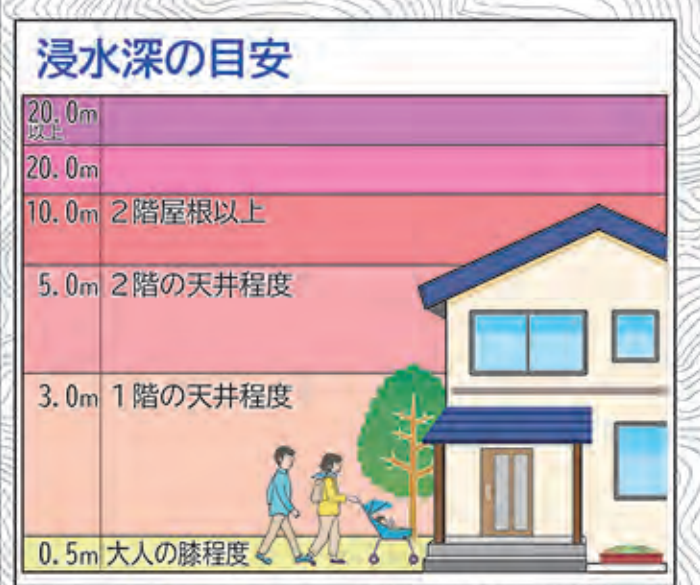
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域

※詳細は「土砂災害ハザードマップ」をご確認ください

指定避難所
要配慮者利用施設
避難時の注意箇所
(アンダーパス等、避難する際には注意が必要な箇所です)

市役所
警察署
消防署
主な病院
水位観測所
(CCTVカメラ含む)
危機管理水位計

地区界
市界



早期の立退き避難が必要な区域

家屋が倒壊するような氾濫や河岸の侵食が発生するおそれがある区域や、家屋の最上層も水没するおそれがある区域は、早期の立退き避難が必要です。このような区域では、屋内に留まることにより直ちに命に危険がおよぶおそれがあるため、災害時は避難指示等に従って安全な場所に速やかに避難してください。

指定区域の種類	発生する現象と避難行動
早期の立退き避難が必要な区域	
家屋倒壊等氾濫想定区域	堤防決壊等により流速の早い「氾濫流」が発生するおそれがある区域です。本造家屋は倒壊するおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。
河岸侵食	家屋が倒壊するような「河岸侵食」が発生するおそれがある区域です。地面が削られ、家屋が崩落するおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。
家屋が水没するおそれがある区域	最上層も水没するような浸水のおそれがある区域です。屋内に留まることにより命に危険がおよぶおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。

おおよその距離と時間を計ってみよう

マップ上で距離を測る

1円玉
おおよそ 2cm
地図では 200m
直線距離

マップ上でおおよその時間を測る

	一般の方	東日本大震災の平均避難速度	身体障害者、乳幼児等
おおよそ	2.4cm	おおよそ	おおよそ
	4分	7分	8分
	毎秒 1.0m	毎秒 0.62m	毎秒 0.5m

歩行速度参考：浜道難民救済推進委員会

指定避難所一覧表

○：使用可能
□：浸水した深さによっては記載の避難可能階層へ避難して下さい
※状況により開設されないことがあります

No	地区	避難所施設名称	所在地	洪水	土砂災害
18	片貝	片貝コミュニティセンター	島尻818	2階以上	○

水害発生時における避難の心得

- ①正確な情報収集と早期の避難
避難指示、災害情報、避難情報等を受信し、危険を感じたら、早めに避難しましょう。
- ②動きやすい服装と集団での避難
長靴は水が乾かに入ると動きにくくなるため、スニーカーなど動きやすい服装で、集団で避難しましょう。避難用具はリュックに入れ、両手は使えるようにしましょう。氾濫した水は濁っており、水路やマンホールは見えませんが、棒などで確認しながら、避難しましょう。
- ③要配慮者への避難支援
高齢者や障害者、乳幼児など避難に支援が必要な方が隣近所におられる場合は、早期の避難を促し、支援してあげましょう。
- ④車での避難時の注意
車での避難中に命を落とす事例が多発している。アンダーパスに侵入したり、河川沿いを走行して転落したり、決壊に巻き込まれたりして、避難できなかったりする場合もある。車での避難は危険性があることを認識しておきましょう。
- ⑤万が一逃げ遅れた場合
万が一、逃げ遅れた場合は、丈夫な建物の高層階に避難し、救助を待ちましょう。無理をして避難すると、かえって危険となります。

避難行動の選択肢と安全確保

1. 指定の避難所への立退き避難
浸水が始まる前に、非常持ち出し袋を持って、市からの避難指示等の発令状況や避難所の開設状況を確認してから、指定の避難所に避難しましょう。安全に通行できるか、事前に避難所までの避難経路を歩いて確認しておきましょう。
2. 安全な親戚・知人宅への立退き避難
普段から災害時の避難について相談しておきましょう。※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。
3. 安全なホテル・旅館への立退き避難
通常の宿泊料が必要となります。事前に予約・確認しましょう。※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。
4. 屋内安全確保
ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫を確認することが必要です。
 - ① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
 - ② 浸水深より居室は高い
 - ③ 水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分

車避難の危険性

- ① 車での避難には様々な危険性があります！
 - ・ 浸水しているアンダーパスで動けなくなる
 - ・ 川沿いや田んぼ沿いの道路で転落する
 - ・ 渋滞が発生し、避難に時間がかかる
- ② 車が浸水するとどうなる？
 - 水深がドアの高さの半分を超えると内側からほぼ開けられなくなる
 - タイヤが水没、車体が浮いて流される
 - マフラーから浸水するとエンジン停止の可能性
- ③ もしも冠水した道路で動けなくなったら…
 - 緊急脱出用ハンマーを車に載せておきましょう。
- ④ もしも車内に水が入ってきたら…
 - 車内と車外の水位の差が小さくなってから、大きく息を吸い込み足などに力を込めて押し開け、一気に脱出を図りましょう。

参考：JAFホームページ

魚津市洪水ハザードマップ 全体図 (想定最大規模降雨) 2026年8月作成

洪水ハザードマップとは

- 近年の豪雨災害を受け、河川整備の目標とする降雨「計画規模降雨」に対し、想定される最大の降雨「想定最大規模降雨」が設定されました。
- この地図は、布瀬川などの富山県が管理する河川の流域に想定最大規模降雨によって河川が増水し、堤防が決壊(破壊)した場合の浸水予測結果に基づいて、浸水する範囲と被害の大きさを示したものです。
- 流域(降った雨が、対象の河川に流れ込む範囲)への24時間総雨量が右記の降雨と想定してシミュレーションを行っています。
- 水害の恐れがあるときは、市が発令する「高齢者等避難」や「避難指示」に従い、速やかに避難してください。
- 「緊急安全確保」が発令された場合や逃げ遅れた場合は、無理をせず高い安全ななどの場所に避難してください。

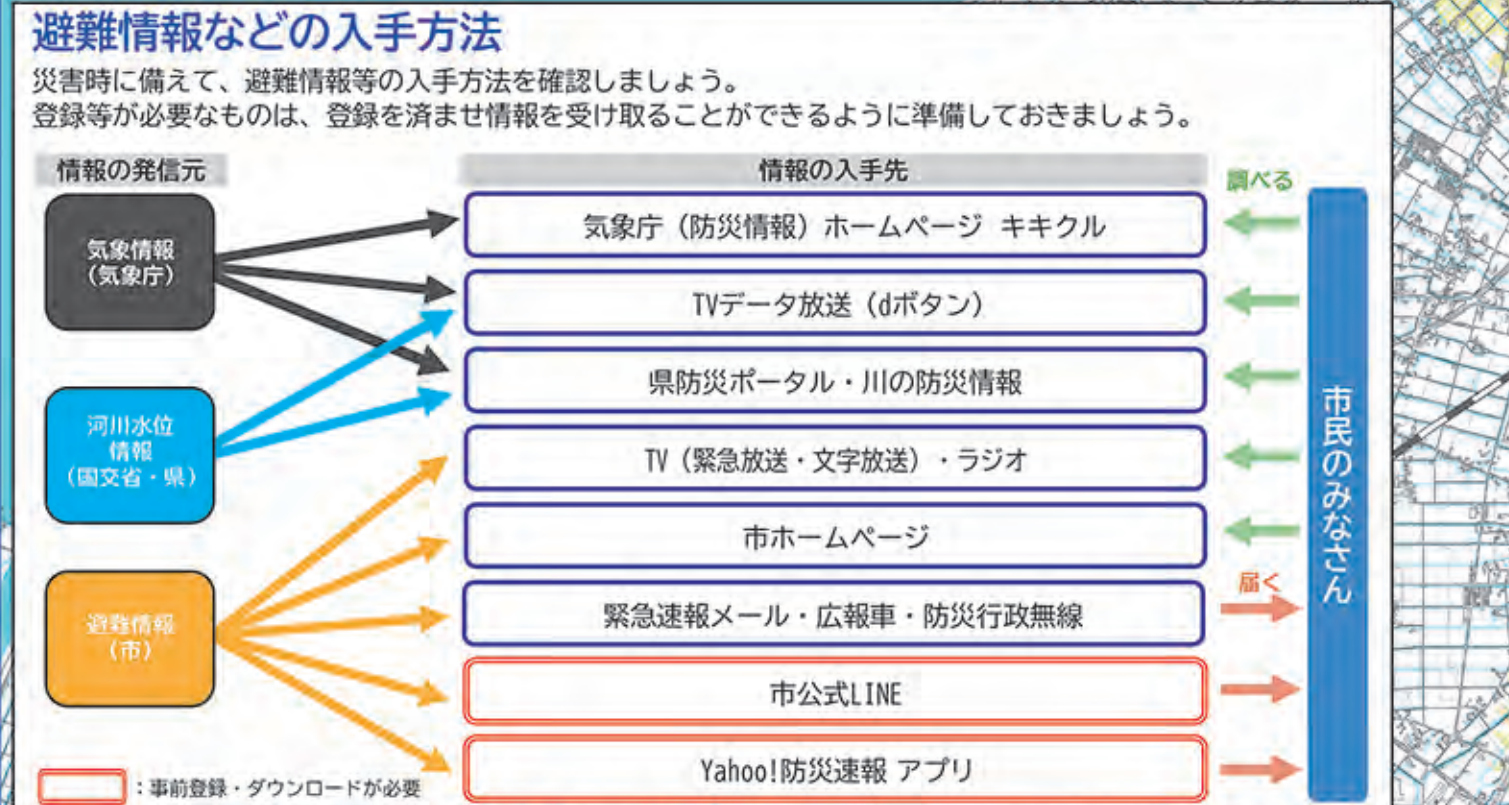
※既存の洪水ハザードマップと見比べておまじょう。
※地図に示した範囲以外でも、浸水被害が起る可能性があります。

過去の主な水害

- 片貝川は平均河床勾配1/12と日本屈指の急流河川で、昭和27年や昭和44年豪雨で水害が発生している。昭和27年7月豪雨では片貝地区で堤防が決壊、片貝・加積地区で橋梁の流出、床上浸水、田畑流出などの被害を受けた。(昭和47年 魚津史実: 魚津市)
- 鴨川は、川幅が狭く流れも急で、洪水被害が度々発生してきた。平成10年7月豪雨では、魚津市中心街において、床上浸水26戸、主要道路の通行止めなどの被害が発生した。平成26年7月豪雨では、魚津市中心街において、床上浸水3戸、床下浸水123戸の被害が発生した。(平成30年 地域防災計画: 魚津市)
- 角川は魚津市街地を流れているために、昔から洪水のたびに被害が発生。近年では昭和27年、39年、44年に特に大きな被害を受けた。昭和39年7月豪雨では角川下流域で避難命令が出された。(昭和39年 山陰・北陸豪雨速報: 富山地方気象台)

川が氾濫し、商店街の家々は床上浸水。雨の中、懸命の救助活動が続く。後援(角川) 339.7.13
<昭和39年豪雨の被害状況(角川)>
雨量: 平野野に約200mm/24時間

<平成26年7月豪雨の被害状況(鴨川)>
雨量: 市内に約219mm/24時間



警戒レベル(避難情報・気象警報等各種)

自治体や気象庁等から発表される防災情報について、住民がとるべき行動を直感的に理解しやすくなるよう、5段階の警戒レベルを明記して防災情報が提供されることとなります。自治体から避難指示や高齢者等避難が発令された際には速やかに避難行動をとってください。また、避難指示等が発令されなくても、警戒レベル4や警戒レベル3に相当する防災気象情報が発表された際には、キキクルや河川の水位情報等を用いて自ら避難の判断をしてください。避難にあたっては、あらかじめ指定された避難所へ向かうことにとらわらず、川や崖から少しでも離れた、近くの頑丈な建物の上層階に避難するなど、自らの判断でその時点で最善の安全確保行動をとることが重要です。

	河川氾濫 1階河川などの 大雨の氾濫	大雨 堤防の浸水や 大雨以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地の崩壊や 土石流	高潮 海水の上昇や 高潮による浸水	(警戒レベルごとの) 住民がとるべき行動	発令される情報
レベル5	警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報 高潮特別警報	レベル5	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保
＜警戒レベル4までに危険な場所から、かならず避難！＞						
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	速やかに安全な場所に 避難する	避難指示
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は 避難する	高齢者等避難
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	ハザードマップなどで 避難行動を確認する	大雨・浸水・高潮速報 (気象庁)
警戒レベル1	早期注意情報				災害への心構えを高める	—

災害時の安否確認方法を確認しておきましょう

災害用伝言ダイヤル (171) のご利用方法

- 1 7 1 にダイヤル
- ガイダンスが流れます
- 録音する場合 1 再生する場合 2
- ガイダンスが流れます
- 電話番号を入力
- 被災地の電話番号・携帯電話・PHS・IP電話の電話番号を市街局番からダイヤルしてください。

災害用伝言板 (web171) のご利用方法

- https://www.web171.jp にアクセス
- 電話番号を入力
- 被災地の電話番号・携帯電話・PHS・IP電話の電話番号を市街局番から入力してください。
- 画面の指示に従って文字による伝言を登録

171・web171の体験利用ができます

- 毎月1日・15日
- 正月三が日 (1月1日～3日)
- 防災とボランティア週間 (1月15日～21日)
- 防災週間 (8月30日～9月5日)

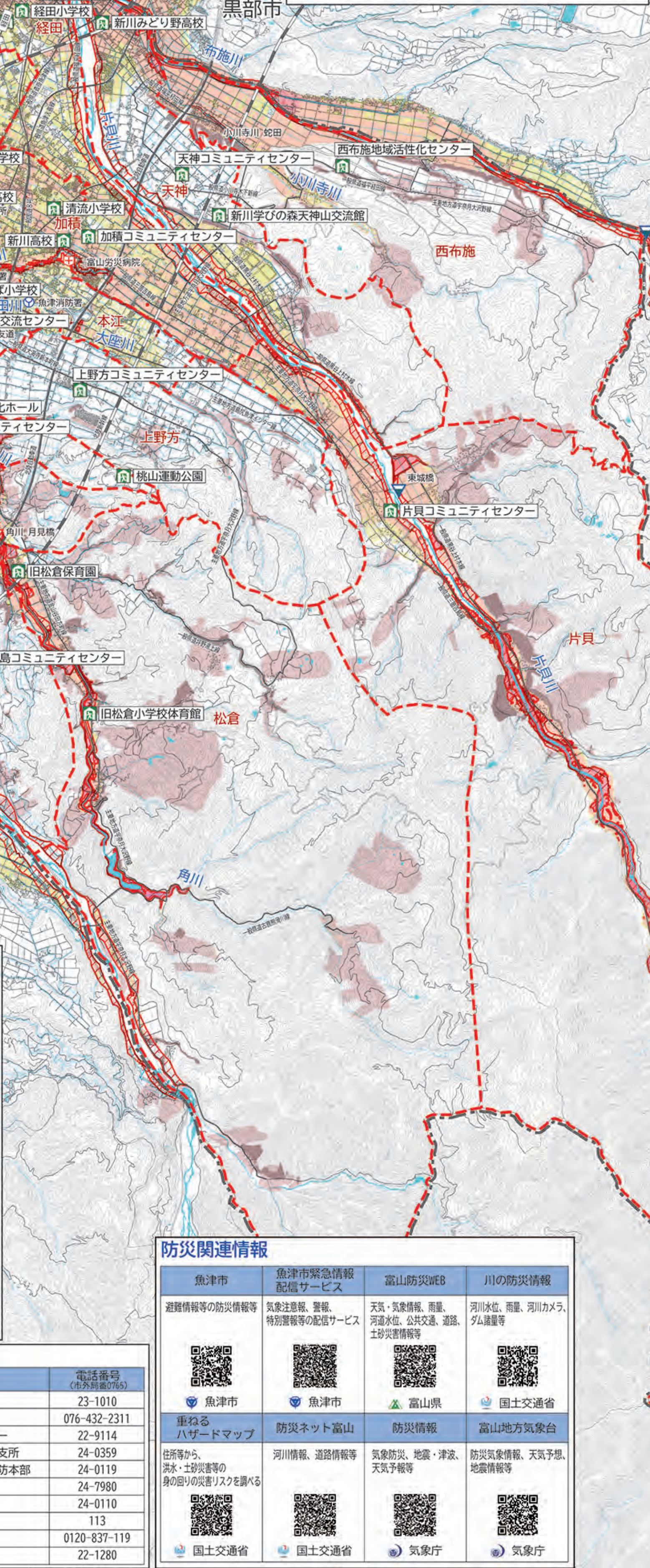
※ 指定避難所には被災者などが無料で試用することができる災害時用公衆電話 (特設公衆電話) の回線を事前に構築しています。指定避難所が開設された際には施設管理者により電話機が設置され利用可能となります。

自主防災組織への加入・訓練

自主防災組織とは、「自分達の地域は自分達で守る。」ために自主的に結成する組織で、災害による被害を防止し軽減するため、初期消火、避難誘導等の活動を行う組織です。地域にお住まいの皆さんも一緒に、防災訓練等の自主防災組織の活動に参加していただき、防災意識を高め、お互いに助け合う協力体制を構築し「災害に強いまちづくり」に取り組みしましょう!

自主防災組織の活動内容

- 防災知識の普及、習得
- 地域版防災マップの作成・運用
- 地域の防災訓練、防災講習会の実施
- 高齢者、幼児等の要配慮者への避難支援
- 地域の災害危険箇所の把握、点検 (地域住民への周知)



ハザードマップの使い方

- 1 自宅を見つけましょう
- 2 避難する場所を確認しましょう
- 3 安全な避難経路を決めましょう
- 4 実際に避難経路を歩いてみましょう
- 5 家族で話し合しましょう
- 6 学校や近所で考えましょう

自宅の周りではどんな災害と被害が想定されているかを確認しましょう。

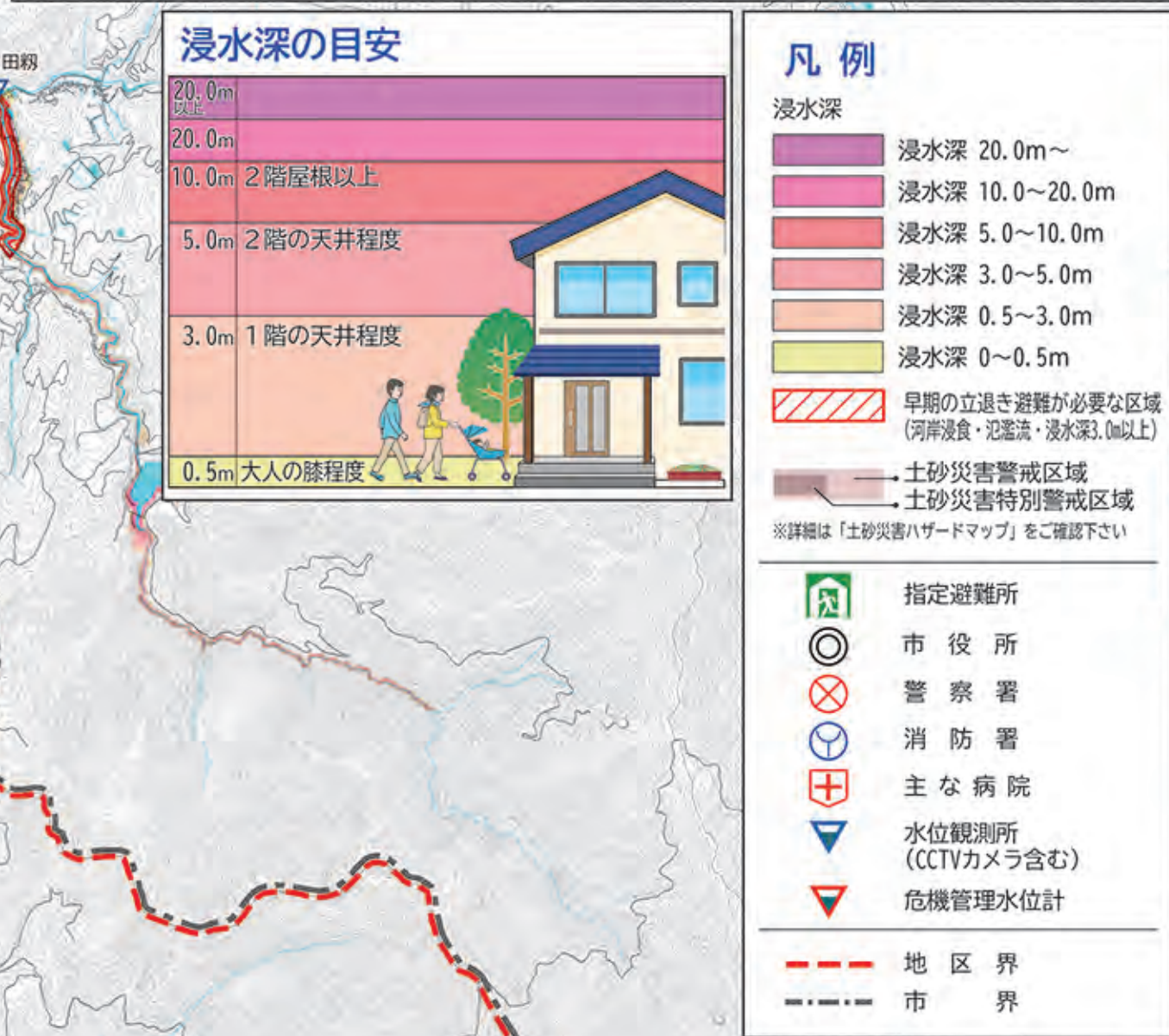
自宅の最寄りの避難所に印をつけましょう。また、第2候補、第3候補も決めましょう。

自宅から避難所までの避難経路を、魚津市ホームページや国土地理院が公表している重ねるハザードマップを参考に考えましょう。川・山の近くを通るルートは危険なので避けましょう。

足元が悪い状況でも安全に避難できそうか確かめましょう。地図上ではわからない危険が潜んでいるかもしれません。

災害時の行動について家族と話し合い、書き込んでみましょう。

学校や近所で災害について話し合うことも大事です。いざという時は周りの人と協力して避難しましょう。



非常持出品・非常備蓄品

非常持出品 いざというときにあわてないよう準備しておきましょう

貴重品

- 身分証明書
- 健康保険証
- 印鑑 □ 通帳
- 現金 (小銭を含む)

医薬品類

- 常備薬 □ マスク
- 消毒液
- おくすり手帳
- 体温計

小物道具類

- 懐中電灯 □ ラジオ
- 電池
- 携帯電話、充電器

袋類

- ゴミ袋、レジ袋
- チャック付きビニール袋

その他

- ティッシュ
- ウェットティッシュ
- タオル
- 軍手
- 雨具、防寒着
- スリッパ
- レジャーシート □ 筆記用具
- 生理用品

非常備蓄品

- 水
- 缶詰
- アルファ化米
- インスタント食品
- 卓上コンロ、ガスボンベ

水・食料等

- 飲料水
- 非常食

災害時の感染症対策について

- 非常持出品の確認
- 避難所生活の感染症対策として、できる限り備えておきましょう。
- 不織布マスク
- 手指消毒剤
- 除菌アルコールシート
- 体温計
- 避難所での過ごし方に注意しましょう
- 避難所に入る前に、検温、体調のチェック
- こまめな手洗い、咳エチケットの徹底
- 他の避難者との距離を十分に取る

ローリングストックのすすめ

ローリングストックとは、日常から食べている日持ちのする食品や生活用品を少し多めに買い置きし、古いものから消費して、使った分だけ新しく買い足しておく備蓄の考えです。この方法だと日常生活の中で無理なく備蓄できます。

ローリングストックのサイクル

- 1 備える
- 2 使う
- 3 買い足す

買い足しながら備蓄をキープ

足りないものがないかときどき確認日持ちする食品を少し多めに買い置き

期限の近いものから日常の中で消費

指定避難所一覧表

○: 使用可能
□: 浸水した深さによっては記載の避難可能階層へ避難して下さい
※ 状況により開設されないことがあります

No	地区	避難所施設名称	所在地	洪水	土砂災害
1	大町	旧大町小学校	本町1-10-39	2階以上	○
2	大町	大町コミュニティセンター	本町1-1-10	2階以上	○
3	村木	村木コミュニティセンター	村木町1-21	○ (床下浸水)	○
4	下中島	星の杜小学校	住吉203	2階以上	○
5	下中島	下中島コミュニティセンター	慶野172-2	○ (床下浸水)	○
6	下中島	新川文化ホール	宮津110	2階以上	○
7	下中島	北陸職業能力開発大学校	川崎1289-1	2階以上	○
8	上中島	旧上中島小学校体育館	吉野1263	○	○
9	上中島	上中島コミュニティセンター	下橋8	○	○
10	松倉	旧松倉小学校体育館	鹿熊11	2階以上	○
11	松倉	旧松倉保育園	金山谷2899-2	2階以上	○
12	上野方	上野方コミュニティセンター	大海寺野1373-1	○	○
13	上野方	桃山運動公園	出字桃山36	○	○
14	本江	よつば小学校	本江1041	○ (床下浸水)	○
15	本江	西部中学校	友道212	○ (床下浸水)	○
16	本江	本江地域交流センター	友道1375-1	○ (床下浸水)	○
17	本江	魚津市立図書館	本江1940	○ (床下浸水)	○
18	片貝	片貝コミュニティセンター	島尻818	2階以上	○
19	加積	清流小学校	吉島432	2階以上	○
20	加積	東部中学校	吉島1934	2階以上	○
21	加積	加積コミュニティセンター	六郎丸1062	○ (床下浸水)	○
22	加積	魚津高校	吉島945	○ (床下浸水)	○
23	加積	新川高校	吉島1350	2階以上	○
24	道下	道下小学校	北鬼江2741	○ (床下浸水)	○
25	道下	道下コミュニティセンター	北鬼江2-14-15	○ (床下浸水)	○
26	道下	ありそドーム	北鬼江2898-3	○ (床下浸水)	○
27	経田	経田小学校	浜経田665-3	○ (床下浸水)	○
28	経田	経田コミュニティセンター	浜経田466	○ (床下浸水)	○
29	経田	魚津工業高校	浜経田3338	3階以上	○
30	天神	新川学びの森天神山交流館	天神野新147-1	○	○
31	天神	天神コミュニティセンター	天神野新220	○	○
32	天神	新川みどり野高校	木下新144	2階以上	○
33	西布施	西布施地域活性化センター	長引野1290-3	○	○

防災関連情報

魚津市	魚津市緊急情報配信サービス	富山防災WEB	川の防災情報
避難情報等の防災情報等	気象注意報、警報、特別警報等の配信サービス	天気・気象情報、雨量、河流水位、公共交通、道路、土砂災害情報等	河川水位、雨量、河川カメラ、ダム運轉等
魚津市	魚津市	富山県	国土交通省
重ねるハザードマップ	防災ネット富山	防災情報	富山地方気象台
住所等から、洪水、土砂災害等の身の周りの災害リスクを調べる	河川情報、道路情報等	気象防災、地震・津波、天気予報等	防災気象情報、天気予想、地震情報等
国土交通省	国土交通省	気象庁	気象庁

防災関連機関

名称	電話番号 (市外局番の付)
魚津市役所	23-1010
富山地方気象台	076-432-2311
富山県新川土木センター	22-9114
新川厚生センター・魚津支所	24-0359
富山県東部消防組合消防本部	24-0119
魚津消防署	24-7980
魚津警察署	24-0110
NTT西日本	113
北陸電力	0120-837-119
富山労災病院	22-1280